■広場全体の利用率

広場の利用件数は、中規模以上のイベントが全体の半数以上を占めています。イベント件数は増加傾向にあり（図 2-8）、規模別の広場利用日数は、大規模のイベントが最も多くなっています（図 2-9）。

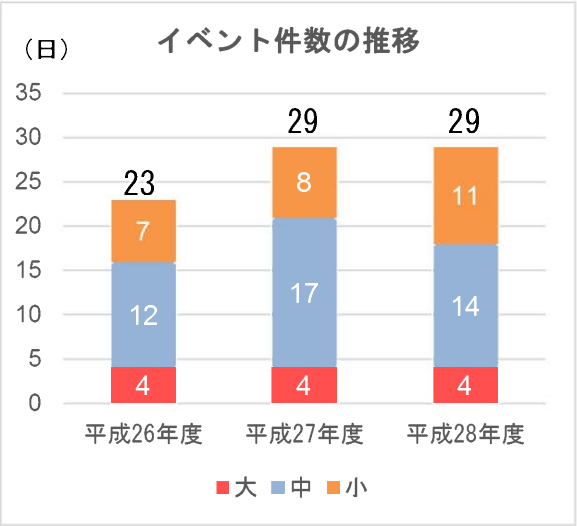


図 2-8　広場でのイベント件数の推移

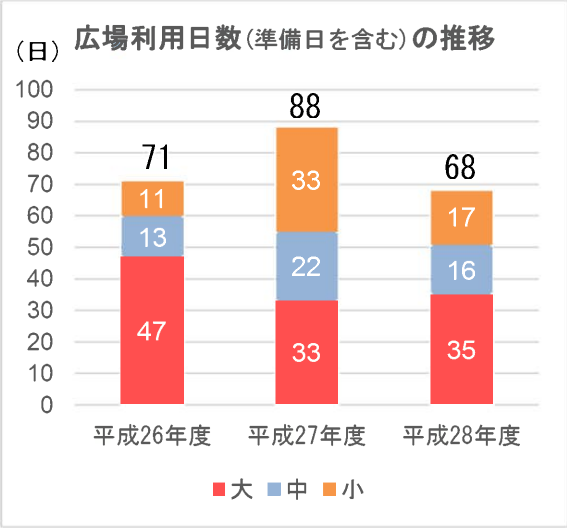


図 2-9　広場利用日数（準備日を含む）の推移

〔規模について〕

小：小規模イベント　参加者数 ～1,000 人程度

中：中規模イベント　参加者数 1,000～3,000 人程度

大：大規模イベント　参加者数 3,000 人程度～

2016 年（平成 28 年度）の広場利用日数は 68 日で、利用率は 18.6%となっており（図 2-10）、季節毎に見た広場の利用日数は、夏（7～9 月）が最も多く、秋（10～12 月）が最も少ない状況です（図 2-11）。

		1 年間	2014 年度（平成 26 年度）		2015 年度（平成 27 年度）		2016 年度（平成 28 年度）	
		全体日数(日)	利用日数(日)	利用率	利用日数(日)	利用率	利用日数(日)	利用率
広場利用日（準備日含む）	平日	247	39	15.8%	43	17.4%	34	13.8%
	休日	118	32	27.1%	45	38.1%	34	28.8%
	計	365	71	19.5%	88	24.1%	68	18.6%

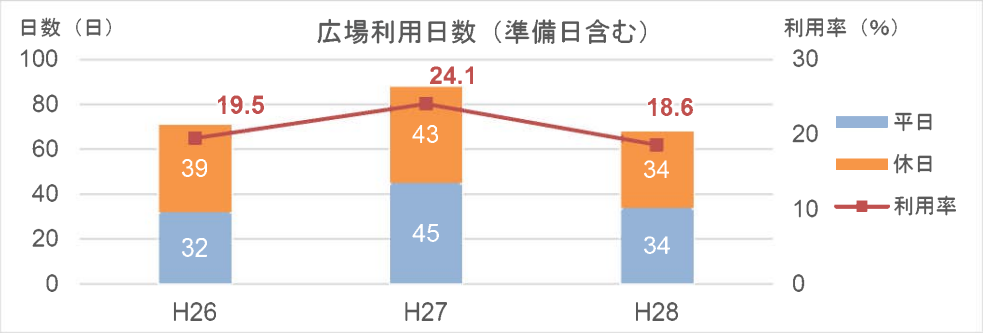


図 2-10　広場の準備日を含む利用日数の推移

※1 年間の平日・休日の全体日数（休日・平日）は、2014 年（平成 26 年）の日数を採用。

		2014 年度（平成 26 年度）		2015 年度（平成 27 年度）		2016 年度（平成 28 年度）	
		利用日数（日）		利用日数（日）		利用日数（日）	
春（4～6 月）	平日	1	8	7	22	3	17
	休日	7	(6)	15	(10)	14	(11)
夏（7～9 月）	平日	20	33	24	45	17	29
	休日	13	(15)	21	(14)	12	(14)
秋（10～12 月）	平日	0	3	1	5	1	3
	休日	3	(3)	4	(4)	2	(3)
冬（1～3 月）	平日	18	27	11	16	13	19
	休日	9	(1)	5	(1)	6	(1)

※利用日数の下の（）内はイベント件数。

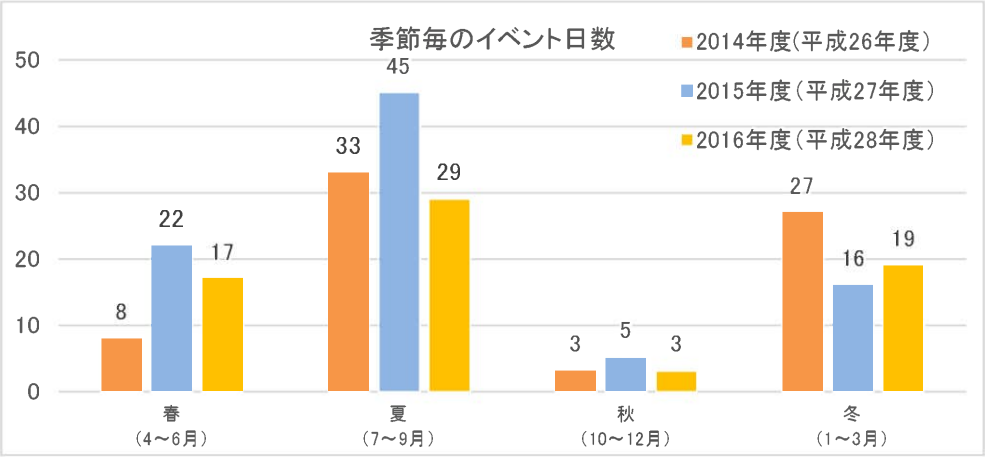


図 2-11　広場の季節毎の利用日数

■ステージ・パーゴラの利用率

ステージの利用率は、全体で見ると約 5 割となっていますが、大規模のイベントでは必ず利用されています。

パーゴラの利用率は、全体で見ると約 8 割弱となっており、大規模と中規模のイベントでは必ず利用されています。

飲食実施率は、全体で見ると約 3 割にとどまりますが、大規模のイベントでは必ず実施されています。

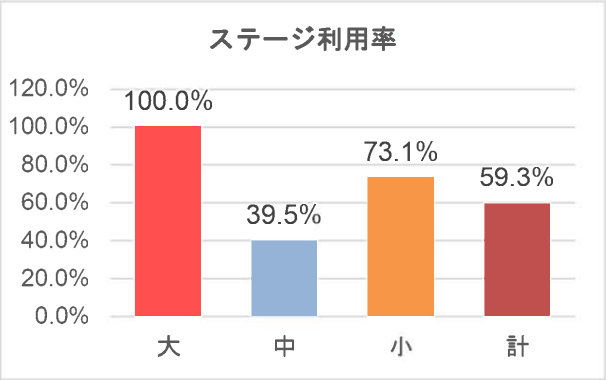


図 2-12　ステージ利用率

ステージの様子

※ステージテント（屋根）は 5 月上旬～10 月末までの設置

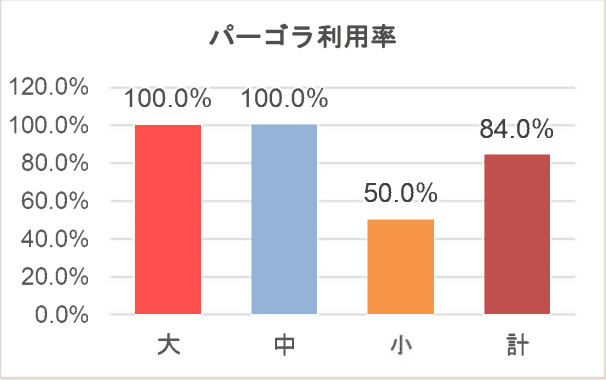


図 2-13　パーゴラ利用率

パーゴラの様子

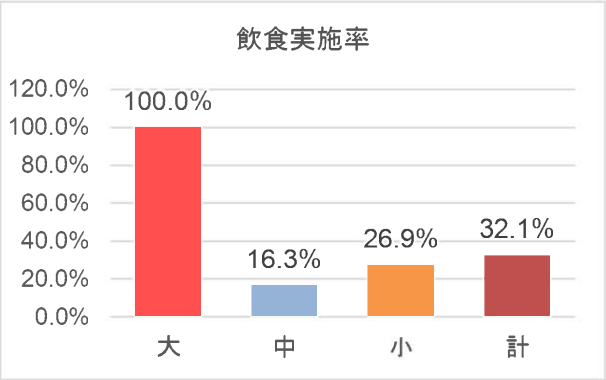


図 2-14　イベントでの飲食実施率

※グラフは全て平成 26～28 年度の合計値

厚別区子どもまつりの飲食店の様子

（2）公園の利用状況

■北側

①キラ☆キラ広場

2010 年（平成 22 年）に区の 20 周年事業の一環として整備された噴水広場です。「みんなが安心してくつろげる賑わいの空間」をキーワードに、特に小さな子どもの利用にスポットを当てた整備がなされており、現在も多くの親子がにぎわう空間として活用され、貴重な施設となっています。

キラ☆キラ広場の様子

②園路（駐輪場）

商業施設と公園を結ぶ科学館公園前の園路上には、通勤・通学者等のための仮設駐輪場が設置されており、歩行空間を一部阻害しています。そのため、隣接するキラ☆キラ広場に人や自転車が侵入し、動線化してしまっている現状があります。

園路上にある仮設駐輪場の様子

■南側

多くの機能が集積する駅周辺において、自然を感じられる貴重な散策路となっています。

ただし、平たんではなく高低差があることに加え、成長した高･低木が密集していることから、視認性が悪く利用者は少ない状況です。

また、公園用のトイレも設置されていますが、同様の理由で利用しづらい状況です。

南側の様子

■中央部

青少年科学館のエントランス広場となっており、コンセプトに即した日時計やモニュメント等が設置されているほか、広場の中心部には地下鉄出入口が設置されています。

開かれた空間を利用して、区民まつりの際には飲食等の出店が並ぶなど、広場とともににぎわいの創出に寄与しています。

しかし、日常的に人通りも多くなく、人が滞在するようなにぎわいは少ない状況です。

公園中央部の様子

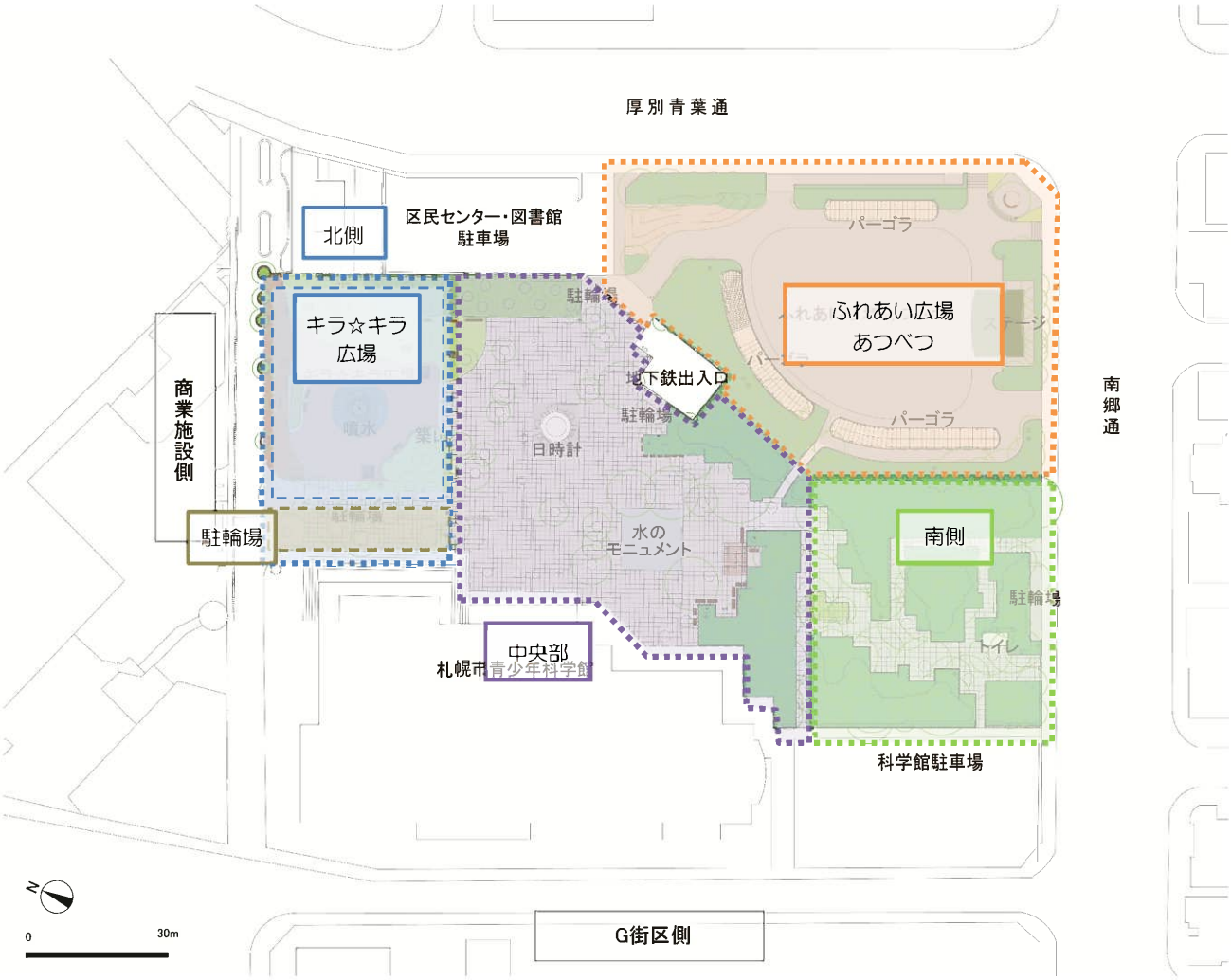


図 2-15　計画地区図

3　利用者等のニーズ調査

（1）アンケート調査

広場や公園利用者及びその周辺の通行者や施設利用者を対象に、広場や公園の日常的な利用や今後の利用に関するアンケート調査を行いました（詳細は、資料編 P.●参照）。

■調査概要

〇調査日時

①街頭アンケート

広場・公園及びその周辺でイベントが開催される日を除く、平日・休日の各１日（土曜日も休日とみなす）。

（休日調査日）　2017 年（平成 29 年）8 月 19 日(土)　10 時～18 時

（平日調査日）　2017 年（平成 29 年）8 月 21 日(月)　10 時～18 時

②配架アンケート（厚別区役所、厚別区内まちづくりセンター等の公共施設や JR, 地下鉄などの公共交通機関にて配架）

2017 年（平成 29 年）8 月 19 日（土）～2017 年（平成 29 年）9 月 6 日（水）

〇回収数

①街頭アンケート　127 件（休日　60 件、平日　67 件）

②配架アンケート　242 件

計　369 件（うち無効票数　21 件）

■主な調査結果（再整備内容に関する主な回答）

【将来のあり方について】

Q　より多くの方に利用してもらうために、科学館公園はどのような場所になったら良いと思うか。

１位 気軽に休めてくつろげる場所：26.7%　／　２位 親子が安心して遊べる場所：26.6%

Q　今後、ふれあい広場あつべつでどのようににぎわいを生み出したら良いと思うか。

１位 イベント情報をもっと知ってもらえるよう PR する：34.1%

２位 多くのお祭りやイベントを実施する：33.3%

【広場・公園全体の望ましい整備内容に関する意見】

Q　多くの方に利用され、にぎわいを生み出すためにはどのような整備を行うと良いと思うか。

１位 ベンチやテーブル等の休憩設備の設置：24.4%

２位 明るく見通しの良い空間や芝生の整備：20.4%

【利用に関してネガティブな意見】

Q　科学館公園を利用したことがない方の理由

１位 居住地から遠い：23.4%　／　２位 存在を知らなかった：20.6%

Q　ふれあい広場あつべつのイベントに来場したことのない方の理由

１位 イベントを実施していることを知らない：44.0%　／　２位 居住地から遠い：24.8%

【再整備に関する自自由意見】

分類	主なご意見
飲食について	・屋台やフードカーなどが平日にあれば利用したい。 ・カフェやワゴンサービスをつくってはどうか。
イベントについて	・休日でも何もイベントを実施していない時もあるので、イベントを増やしてほしい。 ・色々なイベントがあって良い。区外の人も来てくれたらもっと活発になるのではないか。
周辺施設との連携について	・周辺施設との連携をはかってほしい。（イベントでの連携、空間・動線としての連携）

（2）あつべつ区民協議会（厚別のにぎわい検討委員会）からの意見収集

地域の方々による自主的なまちづくり検討の場である「あつべつ区民協議会」には、主に新さっぽろ駅周辺地区のにぎわい創出に特化して意見交換を行う「厚別のにぎわい検討委員会」という部会があります。

当部会でなされた広場・公園の再整備に関する自由な意見交換の内容について、「ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会」に資料として提出していただくとともに、同あり方検討委員会にも一部委員として参加していただくなど、地域の声をよりに反映できるよう連携を取りながら本計画の策定を進めました。（詳細は、資料編 P. ●参照）

再整備に向けて（広場・科学館公園の利用状況、利用者等のニーズを踏まえて）

広場・公園では、厚別区民まつりを中心に、地域全体で担い・楽しむことができ、多くのにぎわいを創出している大規模なイベントが開催されています。これら地域が必要としている**歴史のあるイベントを引き続き支えていくこと**が求められます。

しかし、広場の年間利用率は決して高くなく、**特に秋・冬の季節の利用が少ない**という課題があることから、**四季折々で１年中にぎわいを生むことに寄与**できる空間とすることが求められます。

加えて、公園内に設置されている仮設駐輪場によって、公園・広場の回遊性が阻害されており、両者の連携や一体での活用がしづらい状況となっていること、さらに、アンケート調査では「気軽にくつろげる」「親子が安心して遊べる」といった意見がある一方で、「多くのお祭りやイベントを実施する」ことを望む意見も多くあることから、**広場・公園を一体的に捉え、様々なニーズに応えられるような再整備**を目指す必要があります。

また、アンケート調査では飲食サービスの提供やイベントの増加、周辺施設との連携など、**にぎわい創出に繋がるソフト面の取組み**についても意見が出されていることから、将来的な広場・公園の一体的な管理・運営のあり方等も含めた検討も求められます。

4　老朽化施設の状況

（1）広場

■照明・スピーカー

・柱部分にサビが見られます。
・灯具やスピーカーなどの設備の経年劣化による作動不良が見られます。

■パーゴラ

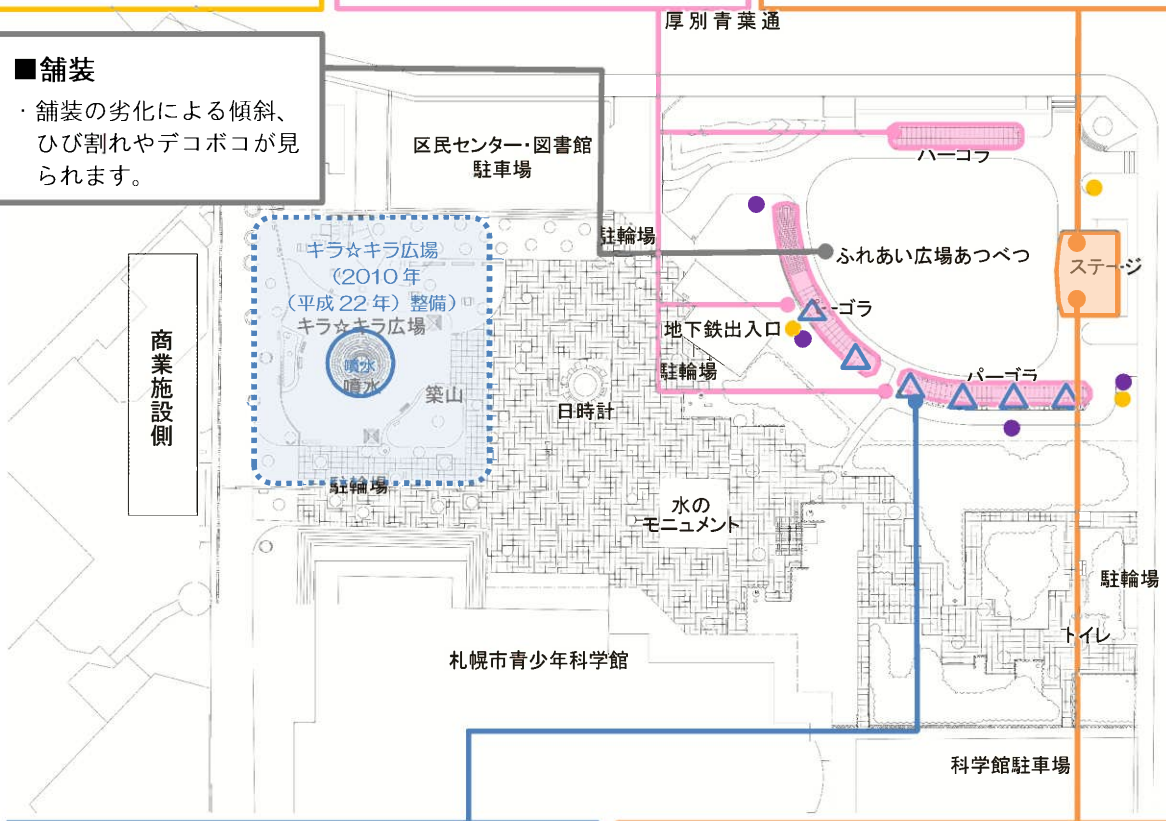
・屋根材が劣化（白化）しています。
・軒先部分にサビがみられます。
・屋根のおさえ材にめくれやサビが見られます。

■ステージ・テント

・前方の骨組み（鉄骨）やテントは耐用年数が経過しており、破損などが見られます。
・ステージ床面・側面が劣化しています。
・ステージ天井の照明が故障しています。

■舗装

・舗装の劣化による傾斜、ひび割れやデコボコが見られます。



■給排水設備（地下水栓）

・腐食や使い勝手の悪さ（地下水栓からのホース接続が必要であるなど）が見られます。

■ステージ地下室

・空調設備、雨水ポンプなど設備の耐用年数が経過しています。
・イベント時の控室使用などで、スペースや間仕切り等がないため、イベント時の控室使用として、利用しづらい状況が見られます。

【凡例】
● 照明
● スピーカー
△ 水栓

図 2-16　広場の老朽化の状況

（2）公園

図 2-17　公園の老朽化の状況

再整備に向けて（老朽化の状況を踏まえ）

これまでの章で確認してきたとおり、広場・公園では、一体的に利用して行われる大規模なイベントから小･中規模のイベントまで、多様なものが開催されています。

地下鉄や JR の駅前空間でありながら、ステージやパーゴラ、水栓設備などを気軽に利用できる環境は、地域を中心とした利用者にとって非常に貴重な存在です。

今後も多様なイベント・にぎわいを支える空間として、既存設備の必要な更新と更なる改善を行い、**引き続き利用者の利便性と安全性を確保**することが必要です。

また、多くの方々が日常的に利用する公園内でも、歩行空間となりうる箇所や照明設備等の老朽化、また樹木の密集など、視認性や安全性に課題を抱えていることから、再整備の中で課題を解消し、**将来の更なるにぎわいややすらぎの創出に向けて**再整備を行う必要があります。

5　周辺開発の状況（G・I街区の開発想定）

■G街区の開発〔2021年4月開業予定〕

G街区の開発では、文系学部及び看護学部の大学の設立、産学連携施設の設立が予定されています。地域に開放される多目的ホールや図書館機能を集積し、多くの学生が集まることによる、にぎわい創出や地域コミュニティへの寄与が期待されています。

図2-18　南郷通側から見たG街区のイメージパース

出典：新さっぽろ駅周辺地区　G・I街区公募提案審査報告書

■Ｉ街区の開発〔2022 年 4 月開業予定〕

Ｉ街区の開発では、医療施設 4 棟、集合住宅、宿泊施設、商業施設の整備が予定されており、にぎわいを生む広場空間をホテル前面、集合住宅後ろの 2 か所に整備することで、多様な機能集積による持続可能なにぎわいの創出が期待されています。

図 2-19　原始林通から見たＩ街区のイメージパース

出典：新さっぽろ駅周辺地区　Ｇ・Ｉ街区公募提案審査報告書

再整備に向けて（周辺開発の状況を踏まえ）

Ｇ･Ｉ街区のような大規模な開発は、新さっぽろ駅周辺地区のまちづくりを進めるうえで非常に大きな効果をもたらします。

広場・公園においても、この機を逃すことなく、地区全体に最大限の効果を発揮できるような再整備が求められます。

とりわけ、隣接するＧ街区の開発により、学生を中心とした多くの若者が来訪することが予想されることから、周辺施設との動線上のつながりを強化し、**まち全体の回遊性向上と広場・公園自体のにぎわいを向上**できるような整備が求められます。

また、動線上のつながりのみではなく、周辺商業施設やＧ街区の教育施設との積極的な連携によって、若者や学生が活躍できるような利活用ニーズの発掘、にぎわい創出の新たな担い手の育成などを目指す必要があります。